

図書館スペシャル講座「時間の種子、物語——シンガーとベンヤミンにみる歴史物語の交差点」を開催しました

表現文化学科 松本潤一郎先生による「時間の種子、物語——シンガーとベンヤミンにみる歴史物語の交差点」を2018年12月28日（金）図書館3階スタディールームにて開催しました。

はじめに、シェイクスピアの作品『マクベス』に出てくるセリフ「時間の種子」、ベンヤミンの「歴史の概念」、アイザック・シンガーの「物語と生きもの」について紹介がありました。

それぞれが生きた時代は違えども、時間の捉え方や、物語と歴史の関係についての考え方には、つながるものがあるということをお話いただきました。

その後、『お話の名手ナフタリと愛馬スウスの物語』を読みながら、「生きものは死んでいくけれど、世界の物語はそれで終わりにはならない」というフレーズから歴史と物語の重要なつながりを感じることができました。

「物語を人間が運ぶことは、言葉で歴史を運ぶこと、書物は携帯できるふるさと。」という先生の言葉が印象的でした。

参加者全員で時間と物語の重要なつながりや、いまでも生き続ける物語について考え、意見や自分の思いを共有しました。

年末の慌ただしさから少し離れて、穏やかな時間を過ごすことができました。

